

生態科学分科会（第21期・第1回）議事要旨

日 時：平成21年1月7日（水）10:00~12:00

場 所：日本学術会議5-A（1）会議室

出席者：加藤真、嶋田正和、高村典子、辻和希、寺島一郎、長谷川真理子、
樋口広芳、松本忠夫、三浦慎悟、向井宏、鷺谷いづみ、
小川保彦（事務局）

*議事に先立ち、以下の新しい委員の確認がなされた。

加藤真、嶋田正和、高村典子、辻和希、寺島一郎、長谷川真理子、樋口広芳、
松本忠夫、三浦慎吾、向井 宏、鷺谷いづみ、矢原徹一、巖佐庸、岩熊敏夫、
甲山隆司、中静透（順不同）

議 事：

1. 「日本の展望—学術からの提言（仮題）」のとりまとめについての手順を鷺谷委員から説明があり、分科会から盛り込みたい内容については積極的に意見を挙げて欲しいという依頼があった。
2. 生物多様性条約 COP10 に向けて、学術会議ならではの取り組みで、何ができそうかについて、議論が交わされた。国際シンポジウムを行なう計画があるとの報告があった。また生態学会を中心にして、さまざまな学会やNGOをも巻き込んだ動きがCOP10をめざして胎動しつつあるという報告があった。本分科会でも他の団体のシンポジウムとの連携の可能性について議論された。同時に、生物多様性の概念が一般にはほとんど理解されていない状況を打開する必要があるとの意見が提出された。
3. 中・高等教育における生態・進化教育が学習指導要領に取り入れられ、平成23年度から改善される見込みがある、との報告があった。また、小学校の1・2年で理系の先生が教育に携わっていない現状に大きな問題点があり、初等教育における自然教育の充実を訴えていかななくてはいけないという意見がでた。中・高等教育自然科学教育に関する分科会がたち切れになったことを受けて、初等教育をも含めた新たな自然科学教育を考える分科会を学術会議の中に作る必要があり、そのように提言していくということになった。

4. **大学のフィールド研究拠点**は、生態科学の教育・研究に必須のものであり、また生物多様性のモニタリングを担うことができる唯一の機関でもあるという認識に立ち、その充実の必要性を訴える答申を提出することが21期のこの分科会の必要課題であるとの意見がでた。
5. 21期の委員長に松本忠夫氏、副委員長に樋口広芳氏を選出した後、加藤真氏と向井 宏氏を幹事として委員長が指名した。
6. 司会を松本委員長に交代した後、21期でとりくむべき議題を議論した。
20期から継承するテーマとして下記のものがあることが確認された。
 - ・ 大学における生態教育の質的保証のあり方を検討する。とくに教養教育のあり方を含む具体的な保証を提言する。
 - ・ フィールド研究拠点の充実
 - ・ 学協会との連携
 - ・ 生態科学を修めた学生たちの就職支援について

上記に加えて、

- ・ 中等教育から大学教育への連携を考える
 - ・ 先進国の生態教育を調査し、国内の教育に資する
 - ・ 中等教育で生態学の教育に携わっている教員の指導・教育について考える
 - ・ 多様性の生態系機能について、研究・教育両方の視点から検討する
- という意見が提出された。

以上